

令和2年度学校経営の重点等

1 学校経営の重点

本校は、校訓である「自律・創造・友愛」の実践をとおして、「翼（ちから）をつけて翔（と）びたとう」のスローガンのもと、知・徳・体の調和のとれた人格の形成を目指して、日々の教育活動を展開し、「未来への道を切り拓く力」を有した生徒の育成に、努力を重ねていく。

また、本校は地元の熱心な支援のもとで誕生した学校であることを忘れず、地域貢献活動を根幹とし、家庭や地域との連携をさらに深め、こころ豊かで自立する人づくりを推進し、地域になくはない学校であり続けるよう取り組む。

(1) 本年度の教育目標

- ① 品格のある生徒育成
- ② 将来に夢をもち、夢の実現を可能にする学力の養成
- ③ 地域で学び、地域に学び、地域で輝く人材の育成

(2) 本年度の具体的な方策

① 品格のある生徒育成

ア 当たり前のことを徹底的にやり続けることのできる人材育成

挨拶 清掃 服装 立ち居振る舞い 言葉遣い

イ 豊かな人間関係の確立

自分を大切にするとともに他者を理解し大切にすることで、互いに高め合うことができる関係の構築

ウ 生徒会活動や部活動の活性化

12月末で1，2年生の部活動加入率70%以上を目標

エ 生徒と教員の信頼関係の構築

信頼できる良き師との出会いを通してコミュニケーションの大切さを学ぶ

② 将来に夢をもち、夢の実現を可能にする学力の養成

ア 生徒の実態にあった授業改善

イ 探究を軸とし、自ら学ぶ姿勢の確立

ウ キャリアプランニング能力を身につけさせるキャリア教育の実施

エ 3年間で諸外国の人と英語で挨拶ができる英会話力の養成

③ 地域で学び、地域に学び、地域で輝く人材の育成

ア 生徒全員をボランティア部員とし、2月末で全校生が1回は地域との交流活動に参加

地域を支える人材としての自覚と態度を養成

世代を超えてコミュニケーションがとれる生徒の育成

イ 特色類型のさらなる充実

ウ ホームページ等による地域への積極的な情報発信

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

(1) 教科指導の重点

① 教育課程

新学習指導要領の内容を踏まえ、基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、自ら学び自ら考える意欲や態度を涵養することで、思考力・判断力・表現力等の育成を図る教育課程の充実を目指す。また生徒一人ひとりの能力や適性に応じた授業改善を図るとともに、

多様な進路に対応した教育課程の編成に努める。

② 芸術保育類型

特色ある類型として、芸術保育類型を設置する。自らが得意とする音楽や美術などの芸術活動や授業で学んだ保育に関する技能を手がかりとして、地域の方々と交流することで、豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力や地域に貢献する態度を養う。

③ 学習活動

心が通いあい、互いが支えあうクラスを基盤として、主体的に学習に取り組む態度を育成する。生徒の実態を十分に把握したうえで基礎・基本を確立し、知識・技能の定着を図る。社会の多様性や変化に柔軟に対応する力を培い、個性を生かし、創造性とチャレンジ精神、ボランティア精神を備えた豊かな人間性を育成する。

ア 基礎・基本の定着を徹底して行う。

イ 習熟度別授業や少人数指導を実施し、生徒の能力・適性・進路に応じた学習指導を行う。

ウ 「探究の時間」を軸として、生徒の興味・関心を引き起こし、主体的意欲的に学ぶ姿勢を確立する。

エ 各教科において「ことばの力」を育むとともに「プレゼン能力」を育成し、感じたり考えたことを他者にわかりやすく伝える力を養成する。

オ 各教科において ICT 機器の活用にも努めるとともに、正解がひとつとは限らない問いに対して協働して解決するなど生徒の課題解決能力を育成する。

カ 英会話を中心とした授業を少人数編成で行い、3年間で諸外国の人と英語で挨拶が出来る程度の英会話力を身につける。

キ 地域貢献活動や各種検定に積極的に参加し、参加の動機や感想、次なる課題などをポートフォリオに記録する。

ク 基礎学力の定着を目的とした毎日の朝学習や確認テストに主体的積極的に取り組む姿勢を身につける。

(2) 生徒指導の重点

生徒一人一人の内面的理解に基づく指導の大切さを認識し、人間的なふれあいを通して心のきずなを深める。また、地域貢献活動などの体験活動を通じて、社会規範意識を身につけさせ、社会の一員としての自立心や自律心を育む。いじめや暴力行為、不登校、児童虐待等については、学校・家庭・地域・カウンセラーとの連携を密にし、その未然防止や早期発見・早期対応に努める。

① 基本的な生活習慣の確立を図る。(挨拶、清掃、身だしなみ、マナー等)

② 生徒一人一人の内面的理解に努め、人間的なふれあいを基盤にした指導体制を充実させるとともに、生徒の自尊感情の高揚を図る。

③ 課外活動の活性化と生徒会活動の充実を図るとともに、地域貢献活動への参加を促す。

④ 教育相談や個人面談において、生徒の心の悩みや問題行動等の早期発見に努めるとともに、適切な指導・助言を行う。

⑤ 特別に支援を要する生徒にとって、学校が居心地の良い場所となるよう通級制度を活用するなど特別支援教育の充実を図る。

(3) 進路指導の重点

生徒が社会の一員としての役割を果たすとともに、一人ひとりの個性や持ち味を最大限発揮しながら自立して生きていくために必要な能力や態度を育む。また地域貢献活動や職場体験など社会とのかかわりの中で、生徒が自らの在り方生き方を考え、「自分らしい生き方」を見いだしていけるようキャリア教育を推進する。さらに生徒一人ひとりが将来に向けて夢を持ち、夢の実現を可能にする学力の養成に努める。

- ① 様々な体験活動を通して、将来社会的自立に必要とされる「コミュニケーション能力」をはじめとする社会人基礎力を養成する。
 - ② 計画的な進路ホームルームやガイダンス、個人指導を通して、生徒自身の自己理解を深めるとともに、個に応じた進路相談を実施する。
 - ③ 「キャリアノート」を活用し、適切な勤労観・職業観を身につけさせ、生徒のキャリアプランニング能力の向上を図る。
 - ④ 進路指導部が中心となり全教職員と保護者等が連携し、生徒一人ひとりに対して丁寧に個別ガイダンスを実施し、各人の目標達成に必要な能力の伸長を図る。
- (4) 人権教育の重点
- 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚の涵養と「人権教育基本方針」に基づく人権に関する知的理解の深化に努める。またすべての人の自己実現と互いを認め合いながら共に生きる「共生社会」の実現に、主体的に取り組む実践力を育成する。
- ① 人権教育をホームルームの年間計画の中に位置づけるとともに、教科や学校行事等の様々な分野において、生徒の確かな人権感覚を育て、人権課題に取り組む意欲、態度を育成する。
 - ② いじめや SNS などによる誹謗中傷は人権侵害であり、全教職員が「人権を侵害する行為は、決して許さない」という態度で生徒に適切に指導助言する。
 - ③ 全教職員が日々人権についての研修を積み重ね、地域の研修会にも参加し、地域の実態などを把握した上で、生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、様々な場面や状況において、具体的な態度や行動ができるように育成する。
- (5) 国際理解教育の重点
- 国際化の進展を踏まえ、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる「異文化を受容し、つながることのできる力」「我が国の伝統や文化に根ざした自己の確立」「自ら発信し行動することのできる力」などの態度や能力を育成する。
- ① 各教科及び探究の時間等において、異文化理解を深めるとともに我が国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
 - ② 英語科の授業において ALT とともに「英会話」に取り組み、その成果を地域の異文化圏の人々との交流活動で発揮するなど生きた語学力を身につける。
 - ③ 姉妹校（オーストラリア Keysborough Secondary College）との交流を深め、体験を通して異文化理解を図る。
- (6) 防災教育の推進
- 命の尊さや助け合いの大切さ、ボランティア活動の重要性等、震災から得た教訓を語り継ぎ、生命に対する畏敬の念や助け合い、共生の心を育み、生徒に人間としての在り方生き方を考えさせる「兵庫の防災教育」に取り組む。また、地域の特性に起因する様々な自然災害に備え、対応できる力を育む。
- ① 近隣地域住民や隣接する小学校とともに防災（避難）訓練を実施し、災害についての科学的な理解を深め、災害発生時に適切に対応できる実践的態度や能力を育成する。
 - ② 震災の教訓をふまえ、命の大切さを実感させる教育に取り組み、生徒のボランティア活動を積極的に推進し、共生の心を育む。
 - ③ 播磨町の避難所指定を受け、関係諸機関と連携して地域の防災拠点としての役割を果たす。

3 健康管理に関する指導の重点

健康の意義を理解し、生涯にわたって健康的な生活をおくる自己管理能力の育成を図る。

(1) 健康相談の充実

生徒の心身の状態をよく観察し、学校と家庭、関係機関との連携に努める。

- (2) 保健委員会の活性化
生徒保健委員会、学校保健委員会の活動を強化し、自他の生命尊重の精神を養う。
- (3) 本年度の目標
 - ① 心身の健康教育を充実し、健康の保持・増進を図る習慣を身につけさせる。
 - ② 教育相談を充実させ、生徒の心身の問題に寄り添い支援する。
 - ③ 様々な事象を通して、自他の命の大切さや生き方を考えさせる。
 - ④ 薬物乱用等身近なところに潜む危険に対する理解を深めさせ、指導を充実する。
 - ⑤ 特別に支援を要する生徒に寄り添い支援する。

4 研究テーマ

- (1) 高等学校における「通級」指導のあり方研究
- (2) 特色類型改編に関する研究
- (3) 構築したコンソーシアムを活用した教育活動に、播磨町活性化プロジェクト委員会を中心として、学校全体で組織的に取り組む手法の研究
- (4) 探究の時間のあり方に関する研究
- (5) 高度情報化社会における望ましい人間関係を構築する力を育む研究
- (6) 短いことばや絵文字等を用いた適切な意思表示方法に関する研究
- (7) 新学習指導要領を踏まえながら、生徒が将来に対して夢を持ち、夢の実現を可能にする学力を身につけることができる開かれた教育課程編成に関する研究

5 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

- (1) 地域で学び、地域に学び、地域で輝く人材の育成
 - ・はりま風薫るフェスタ・国際交流 IN HARIMA・としょかんまつり・大中遺跡まつり等
- (2) 播磨町活性化プロジェクト
播磨町の未来を語ろう会
- (3) クリーンキャンペーン
東はりま特別支援学校、保護者、地域住民と協働した街角清掃
- (4) 地域芸術交流
 - ・播磨町連合音楽会・まちかどコンサート等
- (5) 播磨南小学校との交流
さまざまな教科・科目において播磨南小学校と連携し、互いの深い学びにつなげる活動

6 高校生就業体験事業～インターンシップ推進事業～で実施する内容

- (1) 第3学年授業選択者による高校生ふれあい育児体験
- (2) 第2学年での大学・企業見学
- (3) 第2・3学年でのふれあい看護体験・県庁インターンシップ参加
- (4) 第2学年での就職希望者による企業インターンシップ実施
- (5) 第1学年でのHRの時間を利用したキャリア学習
- (6) 全学年において大学・専門学校授業体験及びキャリアガイダンス

7 高校生キャリアノートの活用に関する内容

- (1) 働くことの意義を理解し、自らの将来に夢を持ち、夢の実現に向けて様々な情報を取捨選択・活用しながら、自己の生き方をデザインするキャリアプランニング能力を育成する。
- (2) 自らの適性を見極めて自己理解を深めるとともに、主体的積極的に大学見学・企業見学を行

うことで自己理解・自己管理能力を養う。

- (3) 地域貢献活動や様々な体験活動を通して、自ら課題を発見し、協働して課題を解決する課題対応能力を養う。
- (4) 日々の教育活動を通して、社会人としてのマナー等社会人基礎力を養い、学校生活の中で適切な意思表示方法を身につけ、より良い人間関係を築かせるために活用することで、人間関係形成能力、社会形成能力を育成する。

8 県立高校特色づくり推進事業～インスパニア・ハイスクール～で実施する内容

- (1) 地域の幼児や児童、高齢者などの異年齢層との交流を積極的に行い、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 播磨町役場から講師を招き、播磨町活性化案を協働して作成する。
- (3) 播磨町役場や地域老人会、播磨南小学校と連携した防災訓練を開催する。
- (4) 芸術保育類型の1年間の学習の成果として行う「芸術保育類型発表会」を開催する。
- (5) 短いことばや絵文字等を用いた適切な意思表示方法を身につける。